

特254

993

戲曲『證明』

發行所
燈台社



始



特 54
993

戯曲「證明」(完)

エホバの證者 明石 順三

「萬軍の神、エホバよ、ヤハ
よ。汝の如く大能ある者は
誰ぞや。汝の眞實は汝を
めぐりたり。」(詩篇六十九篇八節)

エホバは御自身の契約履行と、其の證言を
行する上、常に忠実を在し給ふ。エホバが被造
物との間に契約を作成し給ふ時、エホバは其の
者をして以上の事實を確証せしめ給ふ。純眞
なる精神を以てエホバを求むる者は祝福さ
る。其の人はエホバの御約束の絶対確実な
ることを知らなければならぬ。詩篇記者はエ
ホバの聖名を讃美して言ふ。「エホバよ、汝は、
義しく、汝の審判は直し。汝は正義と此上な
き眞実とを以て、其の證言を命じ給へり。」(詩
篇百十九篇百廿七、百廿八節)。「エホバとの間の契
約關係に入らねばざる者は皆、エホバの御承
証を得んがために其の忠誠と信仰とを立證し

なければならぬ。即ち彼は試験を受け、其の
試験下に於て神に對する己が忠節を立證す
るのである。忠信者はエホバの聖名の證明に
參與す。強烈なる試験を受けたる者が其
の試験下に殆んど打ち挫がれんとする時に、
彼は勇気を失ふことなく、若し己が神に對して
忠誠を持續するをればエホバは必ず彼を安全
の中に保護し給ふ事となつてゐる。「エホバは
眞実ある者を護り給ふ。」(詩篇廿二篇三節)。
神の民の歩みが其の地上的旅路の終点、即ち
ハルマゲドンの直前に接近する時に、彼等の
上には當然強烈なる試験が到来するが、然し
彼等は決して恐怖狼狽しない。「神は眞実な
る者なり。汝等が耐え忍ぶこと能はざる試験に
遇はせじ。汝等が其の試験を耐え忍ぶことを得
んがために、それには本へて逃るべき道を備へ給ふ
べし。」(コリント前書十章十三節)。「遺残者はエホ
バの御目的のために用ひらるべく特別に召し出され
たる人々である。」(汝等を招く者は眞実なる者
なり。彼は此の事を成し給はん。」(テサロニケ前
書五章廿四節)。「エホバは其の契約の民に對し
て、御自身の契約履行に忠実なる事を斷へず

示し給ふ。神は此の事を聖書の中に記録して置いて、神を愛する者に對する力づけとなし、慰めとなし給ふ。神は幾多豫言的戯曲に關する記録の中に於て、御自身の契約履行に忠実なる事を力説し給ふと共に、神の民も亦、己が契約の履行に忠実なるべき事の必要を力説し置き給ふ。今は大なる苦難の時代である。今悪魔は、神の聖意をなすべく契約せる者等を滅さんと躍起狂奔す。此の理由によつて神の民は、今その信仰を強くされて、己が忠節を立證しなげればならぬ。

アカンの罪はヨシユアに大なる苦惱を喚へた。その事即ちヨシユアが神の聖前に「啓れよ、で」(ヨシユア記七章六節) 悲歎の裡に平伏してゐた事実によつて明白である。イスラエルの全陣営が惱み、彼等の信仰が試みられた。ヨシユアの信仰は崩れなかつた。そして彼は神の命を受けを時に立ち上り、神命に服して陣営を潔むべく即刻行動を開始した。アホバは靈的イスラエルの中の或る者の罪によつて全陣営の汚される時の必ず到来する事を豫知し給ふが故に、神は幾千年の大昔に之に關する一の模

圖を豫め作成し置き、今その意義を神の民に顯示し給ふ。アホバは神の民を力づけ慰めんがために此の事をなし給ふのである。神を愛して之に奉仕する者は、己の上の悔心如何なる試験に對しても恐怖狼狽する要なし。我等若し己が責務の履行に忠実ならば、アホバは必ず我等を護つて救ひ出し給ふ事となつてゐる。

イスラエルの陣営の懺悔が行はれた後、それに續いてアホバは更に此の豫言的戯曲の他の一部分を作成して、御自身の聖名證明の事實を豫告して置かれた。茲にアホバ、ヨシユアに言ひ給ひけるは、恐る、勿れ。戦慄く勿れ。軍人を悉く率ひ、立ちてアイに攻め上れ。視よ、我はアイの王及び其の民、其の邑、其の地を全て汝の手に投ぐら(ヨシユア記八章一節)。アホバは斯く豫告して、アカンによつて豫表されたる「悪」に僕ら級の陰謀策動が必ず失敗は終り、ハルマゲドン以前に必ず行はるべき證言の聖業の進展を妨害阻止することの絶対不可能なる事を教示し置き給ふ。「悪」に僕らの悪事は神の民の上の一時的の悪影響を及ぼしたが、然し之は神の民を以て恐怖落膽せし

むる理由とはならなかつた。アホバはヨシユアに向つて「起ちてアイに攻め上れ」と命じ給ふたが此の事は即ちイスラエルの陣営が既に激務められて、民が戦のために準備された事を示す所の明白なる證據である。直ちに民は召集された。而して之は僅か「二三千人」が行くのではなくて「軍人」を悉く率ひて「進發」する事を命ぜられたのである。その如く一九三七年の神の契約の民に與へられたる標記は「起ちてよ、我等起ちてエドム(羅馬皇帝王族)を攻め撃たん(オバヤ書一節)と云ふのであつた。ヨシユア記第八章の記録に於ける此の部分は、アホバがハルマゲドンと其の直前に發生せしめ給ふ事を豫告する他の豫言的一模圖である。之はハルマゲドンに關する一の模圖であるが、エリコのそれとは全く別個のものである。ヨシユアは此處でアホバの神聖を指稱する「キリストイエス」を豫表した。アイ人は對する此の伏兵は、實際の殺戮を行ふところの主の天軍を豫表した。此の伏兵が設けられる一方、イスラエル人の他の部分にはアイの城の前で立ちて敵をおびき出したが、之はハルマゲドンの直前に證言の仕事を勇

敢に進めて、敵の攻撃を招来する者等を豫表した。ヨシユア記第八章の此の部分は、神に敵する者の全部を撃滅して、悪魔が神の聖名の前に到来せしめたる「誹謗」を全く除去し給ふアホバの御目的を豫告してゐるのであつて、此の豫言的戯曲は神が此の御目的を完成し給ふ方法と順序とを明示してゐる。

アイに向つて進發を開始する直前に、アホバはヨシユアに對して全勝を約束し給ふた。「汝さき、エリコと其の王とをなし、如くアイと其の王とを爲すべし。今回は其の貨財及び其の家畜を奪ひて自ら取るべし。汝先づ邑の後方に伏兵を設くべし」と(ヨシユア記八章二節)

エリコの上の幅んだと同様の運命がアイの上にも臨むと云ふ事は、アイの陥落も亦ハルマゲドンに關する一模圖である事を示してゐるのである。カナンの地の最初の城邑として攻略されることとなつたエリコは、アホバに獻げられた。此の地の最初の果木であつた。そして之の分捕品の全部は破却するべきであつた。アイはカナンの地で攻略さるゝ第二番目の城邑であつた。その分捕品は破却されな、何故なれば之の全部がア

ホバに帰さないからである。而して此の事は「今回は其の貨財及びその家畜を奪うて自ら取るべし」と示されあるは見ても明らかである。アイ攻撃の準備に就て「ホバはヨシニアに「汝先づ邑の後方に伏兵を設けよ」と命じ給ふ。」「伏兵」とは、敵の眼から隠れてゐて不意に出現し、敵の狼狽困惑混乱する中、之を撃つ戦略の名稱である。「ホバはよつて設けられたる此の伏兵は、歴史に現はれたる最初の伏兵である。此の事は即ち、ハルマゲドンに於て實際の撃滅の仕事をする大軍は、地上にある悪魔の組織制度の眼から隠れて見えない事を示してゐるのであつて、敵は神が其の聖書の中に記録せしめ給ふ此の事実を信せざるが故に當然此の戦略に陥るのである。此の事實は又、神の證者が神の敵に關する「ホバの御目的を公然と反覆宣明すると共に、一方不信不虔の者が此の證言を信ぜざる事を示す證據である。ハルマゲドンに於て主の大軍は「萬遺漏なく配置さる。大決戦開始と共に退路の全部は絶たれて、敵の逃走を絶対不可能ならしめるのである。アイはエリコの北方に在つた。之より更に西に進んで、アイの稍々北方に位する処にベテルがあつ

た。アイの北方には一の平原あり。其の東方は荒野の高原地帯であつた。ヨシニアはアイの周圍の地勢を充分に調査せる後に、神命に服して其の軍隊を要所々に配置した。」「ヨシニア即ち起ち上り軍人を悉く將てアイに攻め上らんとし、先づ大勇士三萬人を選びて、夜の中、之を遣はせり。」「ヨシニア記八章三節」。

之の成就に際して「ヨシニアよりも大なる「キリストイエスは、「前進せよ、ハルマゲドンに向つて前進せよ。決して背後を振り返るべからず」と命じ給ふ。」「ヨシニアは夜間その軍隊を戦略上の要地に向つて動かし、此の事は即ち、ホバの證者が敵に對して「我等の行動の詳細に就て一々發表しない事を示してゐるのであつて、之は敵に機先を制せられ、其の事なからん爲である。敵をして其の欲するがまゝに行動せしめるのである。」「ヨシニアは其の夜、時を違へて、遠つた軍隊を動かし、伏兵はアイの西方なる丘陵地区即ちベテルとアイの中間に配置された。」「ヨシニアはその手兵を率いて其の夜、アイの東方なる荒野の高原地区に進み、更に北方に揚つて、イスラエルの軍隊とアイ城との中間に陣營を張つた。

ヨシニアは各部隊に向つて命令を發した。アイの西方に埋伏する部隊に達したる命令は曰く「汝等は邑に向ひて、邑の後方に伏すべし。邑は遠く離れ居る勿れ。皆準備をなして待ち居れ。」「ヨシニア記八章四節」。同章第十二節に見ると此の伏兵は五千人の部隊であつた。之は「ホバの神軍の見えざる部分を代表したのであつて、此の大軍は時を待たば主の命令一下、惡魔の地的部隊を襲ふて之を撃滅することゝなつてゐる。」「ヨシニア」より發せられたる更に他の命令は曰く、「我と我の從ふ民は、比自共の邑に攻め入りせん。而して彼等が初めの如く我に向ひて打ち出でん時、我等は彼等の前より逃げ去らん。」「ヨシニア記八章五節」。

適當なる時に此の部隊はアイ城の正面に現はれて攻撃を開始したのであつた。此の事は即ち、地上に在る「ホバの證言」と其の「伴侶」なる「ヨナダグ」とは「キリスト」の前に現はれて證言を進むべく、そのために當然敵より攻撃を受ける時、神の聖意によつて敵の眼には一旦退却するかの如き態勢を執ることゝなるべきを示してゐるのである。」「然せば彼等（勝つた敵）は

我等を追ひて出で去るべし。此は、我等遂に之を邑より誘き出すことを得ん。」「彼は彼等言はん、此の人々は初めの如く、再、我等の前より逃ぐと斯く我等その前より逃げ去らん。」「ヨシニア記八章六節」。此の豫言的戯曲の此の部分はその成就に際して、敵は「ホバの證言を全くやつて、之を撃滅すべく追ひしめる事の必ずあるべきを我等に教へてゐるのである。」「ヨシニアは伏兵隊に命令して、此の部隊は「ヨシニアの手兵が敵の追撃を受くるを見るや、5 出で来りて敵を襲つてと示した。」「汝ら其の伏し居る処より起りて邑を取らんべし。」「汝らの神は「ホバ」之を汝らの手に付し給ふべし。」「ヨシニア記八章七節」。此の事は「ヨシニアよりも大なる「キリストイエスは「ホバの天軍を指揮して、地上に在る「ホバの證言の行動と協力作戦せしめ給ふ事を示してゐる。」「之等の天地兩軍の行動は完全一致するのである。」「エゼキエル書九章一七節の記録も之と全く一致してゐるのであつて、地上に在る「ホバの證言の證言の仕事が終了すると同時に見えざる天軍は主の命令一下、直ちに惡魔の地的組織制度を攻撃して之を滅ぼす事を示

してゐる。斯くの如く主の目を見えざる天軍が惡魔の組織制度を破りて之を撃滅するの事である。ヨシユアは目をなやむ軍隊即ち伏兵部隊に對して再び斯う命令した。ヨシユアは再び斯う命じて、邑に火を放ち、エホバの言の如く入りし。我れ此の敵を討つ命ず。城めよや(ヨシユア記八章八節)。此の敵城を火にて焼き滅ぼす事(ハルマゲドン)に於て惡魔の組織制度の上は燃む撃滅を主要とするものであつて、此の事はエゼキヤルの豫言に示されある所の神の天軍が惡魔の組織制度を撃滅するを全く一致してゐる。之に就て亦他の豫言者(イザヤ)が疫病その前に先立ち行き、熱病(熱火)その足下より出づ(ハバクク書三章五節)。

ヨシユアは西部隊に對して命令を發した。そして今第一部隊は其の部署に就くべく行進を開始した。かくてヨシユア役等を遣はしければ、即ち行きてアイの西の方にて、ベテルとアイとの間に身を伏せたり。ヨシユア其の夜、民の中は宿れり(ヨシユア記八章九節)。軍隊は夜行進した。そして此の五千人の部隊はアイ城の西方に行き、敵の眼に見えざるやうに理伏した。然る後にヨシユアは

シユアは大なる方の部隊即ち二万五千人を動かしてアイ城の東方に配置した。此の大なる方の部隊は一九三七年の大奉仕會議より行動を開始せる地上のエホバの證者を設きた。此の時に全地に於ける神の民は大活動を開始したのである。ヨシユアと共、民は先立ちてアイに上り行けり(ヨシユア記八章十節)。

第十六節に見るに伏兵は五千人に過ぎなかつた。故に他の部隊は二万五千である事が明らかである。之は一九三七年に己が部署に向つて行軍を開始したエホバの證者の全部を預け置きた。米國コロンバス市の奉仕會議に参列せる者及び此の時、全地の各處に集會せる者等は、エホバの證者と、其の「伴侶」なる「ヨナダブ」級が甚大なる熱心をして證言戰場に活動を開始せる事をよく記憶してゐる筈である。此の大奉仕會議に於ける標語は即ち一九三七年の標語である「起てよ、我等起てエドムを攻め撃つん」であつて、之が神エホバより賜つた標語なる事は、一頁の疑ひなき所である。ヨシユアが早晩その軍隊を檢閲せる如くその如く一九三七年の大奉仕會議はエホバの

民に對する檢閲の時であつて、主イエスは全地に於ける神の民に對して「閱兵」を行ひ給ふたのである。此の時ヨシユアに隨伴せる「イスラエルの長老たち」は、人間の投票で選挙せられたる自衛自大的「被選挙長老」ではなくして、之はエホバと其の御國に己が全部を以て帰順し、神命に服すべく常に熱心なる者等を豫表したものである。

ヨシユアは早晩の閱兵を終ると共に其の軍隊を東方からアイ城の地方へ進めて其處に陣營を張つた。之はアイ城から平原を隔てたる直ぐ向ふの地帯であつた。ヨシユアは彼に從ふ軍人悉く上り行きて、攻め寄せ、邑の前に至りてアイの北に陣を取りり。彼とアイとの間には一の谷(平原)ありき(ヨシユア記八章十一節)。北方城門の前の眼前に陣營が張られた。「北はエホバの執行官の出で来る方向を象徴す。イスラエル人が城門の前の現はれたる此の事は、一九三七年以後エホバの證者が「キリスト國」の内外に戸別證言を増進せることを表象してゐるのである。北方、城とイスラエル陣營との中間の平原は攻撃開始の地点として選ばれた。そしてカナン人

は此の方面から攻撃を開始せしむる事を期待したのである。北方より平原の低地に向つて下つてゐる土地は再び上つて、南方即ち城の直ぐ南に達してゐた。城内のカナン人は、ヨシユアの軍隊が此の方面から擧げ上つて城壁を迫る事は非常に困難であると考えてゐたのである。伏兵は既に準備された。ヨシユア五千人はかりを懸けて、邑の西の方にてベテルとアイとの間に之を伏せ置けり(ヨシユア記八章十二節)。

斯くの如く、伏兵はアイ城に直面するヨシユアの部隊の右側に理伏してゐた。之等の位置は、重要なる意義を有するが故に斯く詳細に説明されてゐるのである。此の事はエホバがハルマゲドンの前に敵味方両者の軍隊を動かして、戦闘開始の場所を彼等を就かへ給ふ事を示してゐるのである。神の目を見えざる天軍は地上にあるエホバの證者のために「右腕」となつて之を支持し、神軍の地的部隊が「死の蔭の野」を歩む時に彼等を保護し、彼等の上には災禍の降らざるやうに萬全の守護を與へるのである。(詩篇廿三篇四節)。此の右手にある「伏兵」に就て神は斯く記さしめ給ふ。凡て天使は救

を嗣がんとする者にはへんために遣はさるゝ實にあり
ずや也(ヘブル書一章十四節)。

ヨシユアは早曉その軍隊を城の北方に陣せし
めたる後、その軍隊と共に平原へと移り下つた。
ヨカク民の全軍士を邑の北に置き、其の休兵を邑
の西に置き、ヨシユア其の夜野の中に入りぬ
(ヨシユア記八章十三節)。東天紅を呈して
明らかなると共にアイの城壁上に立つ敵の番
兵は、ヨシユアと其の軍隊が城門の前、平野の
中にあるを發見した。番兵は直ちに急を報じた。
イスラエル軍が攻撃を開始せるの急報はアイ
軍の総指揮者なるアイの王の許に達せられた。
アイの王は山を見しかば、其の邑の人々、皆急
ぎて城に引き進み出で、イスラエルと戦ひける
が、豫て謀し合せ置ける頃には王と其の全て
の民アラバの前に進み来り、王は邑の後方
に伏兵ありて己を窺ふを知らざりき(ヨシユア
記八章十四節)。

カナン人が急遽に進軍して来た事は、彼等の
自信と、彼等に関するエホバの御目的に就て全
く無知なりし事を示すものであつた。彼等は前
の戦争でイスラエル人を追ひ拂つた事を記憶

に就て斯く記されてゐるが彼等言ひをりき、いざ
彼等を断ち滅して、再び國を立つることを得ざ
らしめ、イスラエルの名を再び人に知らしめざらしめ
んと、彼等は心を一つして共に謀り、互ひに誓
ひをなして共に進らふ(詩篇八十三篇四、五節)
神の民に敵対する此の共謀者の中は、
『悪しき僕に級の者が合ふ。』(詩篇八十三篇十七節)
の悪しき者等と共にエホバの證者を撃滅せん
と固く決意するのである。其の時神の民は神
に全的の信頼を持ち、之等の敵に就て斯く祈
るが彼等を永遠に恥ぢせしめ、狼狽して惑
ひて滅び亡せしめ給へ(詩篇八十三篇十七節)
此の祈禱の目的はエホバの聖名の證明され
ん事にある。今日敵の行動に就て之等の事を
書き記してある時、全地の敵は神の民を撃滅
すべく準備をなしてあり、敵の諸機関は何時
にても活動を開始してエホバの忠信者に襲ひ
かゝる事となつてゐる。△白△全地諸國にある
敵側の新聞は、羅馬法王教權の宗教家が其
の仲間なる政治、商業、介子及び武力警察
機關と共に謀してエホバの證者を撃ち滅すべ
く陰謀を企てつゝある事実を報道発表して

してゐた。その如く悪魔と彼の全軍は自信、自
大に驕り、今神よりの警告を無視して、彼等
に關するエホバの御目的に就て全く無知無識
である。アイの王と其の全軍は前にイスラエル人
を撃ち破つた道へ向つて城を飛び出し、再び攻
撃軍を撃破せんと企てた。此の豫言的戯曲
の此の部分に就て、人は此の事が何時如何なる
る風に發生をみるか、全く知る事が出来ない。
何故ならば豫言的模倣はその成就をみたる
後でなければ之を諒解する事が出来ないから
である。然し之の成就が最も近き將來にあると
は明らかであるが、悪魔がエホバの證者の上
に総攻撃を開始する合圍をなす時は未だ到
来してゐない。神の民は斯く豫め警告を受け
て、未らんとする敵の攻撃に對して善く準備され
てゐるのである。フアツシヨと羅馬法王教權の合
同勢力が全世の民主主義諸國の全部を圧
服して、總裁權者が完全なる支配權を掌握
する時、此の合圍が發せらるべく、其の時
こそ即ち「定められらるる時」であつて、悪魔
の側が相共に協力してエホバの證者の上に襲
ひ掛かるべき時である。此の悪しき共謀行為

ある。
ヨシユアと其の軍隊がアイ城の前の平野に不
意に出現した此の事は、此の城に對する攻撃
の切迫せることを示す警告であつた。其の如く今
日、此の豫言の部分の成就に於て、敵の見ゆる
組織制度は、ハルマゲドンが神エホバの戦なる
事と、神は此の戦に於て敵の全部を撃滅し
給ふ事を警告された。然し此の警告は、悪
魔の地的代表者たちによつて全く無視された。
彼等は此の警告を嘲笑し、之に對して何等の
準備をなさない。何故ならば彼等は聖書の全く
無知無識にして彼等に就て豫言されある所に
何等の信仰をも有さないからである。敵は何等
の心に迫り来る危険に就ては多少感知するこ
とに雖も、それの何なるかを知らないのである。彼
等はエホバの證者の宣明しつゝある所を聞くこ
と雖も、之を聞く事を好まないものである。彼等
はエホバの證者を恐れないが、然し之を嫌む。
何故ならばエホバの證者は此の警告を宣明
するからである。彼等はエホバが今神の國の
音信を宣明しつゝある之等の證者を支持し
給ふことを信じない。此の豫言的戯曲は、ハル

マゲドンの大戦が最も切迫せる事を充分に示すべく此の点に於て既に成就せる事を明示してゐる。

之寺敵味方の対陣と、ヨシユアの伏兵及び本隊の位置に就て有名聖書歴史家一人の説明を宛ね紹々(McClintock and Strong's Cyclopaedia, 第一卷第一九三頁)

ヨシユアを隔て、敵前に陣したヨシユアが、攻撃を待たず未だる時に、敵の前高方に在り、イスラエルの陣營に通ずる路は又前高地にして頗る不利の位置を占めて居た。ヨシユアの軍隊は遂に命ぜられ如く退却逃走したが、之は陣官のある北方へではなくして高原と世凡野の東方への逃走であつた。一方城の西方の山岳地区には敵を征服するに充分なるイスラエルの軍隊が伏せられてゐた。イスラエル人の此の集團は城邑の背後に通ずる反対の道を選ばなかつた。何故をれば此の伏兵部隊の行動は城壁上のりまると見えであるから敵はイスラエルを追撃する軍隊を呼び戻して

城門を開ざる虞れがあつたからである。故に伏兵は森林を以て覆はれたる山岳の起つて城門に通ずる最短距離の間道を選んだ。そして若し軍の行動に萬一違算を生じたとしても、此の部隊は本隊に合する前に敵の手で進路を遮断されることはない事を知つてゐた。

一方山を駆け降りてイスラエルを追撃するアいの軍隊は城門に引き帰すか、又は其の隊伍を立て直すための必要なき機会を有する。この行軍は驚異的な形勢であつた。時は未だ、戦闘は開始されず、アイ城の城門は廣く開かれ、城内の全軍は王の指揮下に怒濤の如く走り出で、一隊はイスラエル人を撃滅すべく奮ひかゝつた。ヨシユア、イスラエルの全ての人々と共に彼等に打ち負けし状して、荒野の道を目指して逃げ走りしかば(ヨシユア記八章十五節)。

ヨシユアの軍隊が退却する時に敵はイスラエル人が北方にある彼等の陣營の方へ逃走するものと考えた。その軍を率ひて東方世凡野の方へ退却した。之はアイ軍を誘つて峻路を平野の方へ導

き出た。アイ軍は城門より遠く離れ、又五千人の伏兵の埋伏する地より更に遠く離れた。彼等はイスラエル人を追撃した。彼等は充介の自信を以て己が城を離れ、城門を開け放したるまゝにて只管イスラエル人を追撃した。此の時までヨシユアは敵に打撃を加へなかつた。此の豫言の成就に就て調べて見よ。

今日ハルマゲドンの直前に於て時は極めて短い。エホバの證者は敵前に己等を露出してゐる。彼等は例に屬する武器を有さず、敵に對して何等肉體的打撃を加へない。彼等は此の戦ひに肉に屬する武器を使用すること絶對に許さぬのである。現下の状態は羅馬法王教權を中心として其の間なる全地諸國の政治商業、宣傳工作者その他の連合軍が今、エホバの證者と其の「伴侶」なる「ヨナダブ」に對して總攻撃を加へんとする態勢を示してゐる。此の攻撃はエホバの證者と「ヨナダブ」の上は大過圧を加ふることによつて實現すべく、其の時敵の眼から見ると、神の民は無力にして當然退却するの外に道なく、敵は之を機會に神の民を一掃し撃滅粉砕せんと企てることとなる。ヨシユアより

も大なるキリスト・イエス即ち至上者エホバの大元帥は暫く其の事を許して、エホバの證者をし一見退却するかの如く誘はさしめ給ふべく、之は誘はれて敵に至る者エホバの側に立つ者の全部を一撃に撃滅せんと公然と襲ひ来るであらう。此の時こそ主が其の伏兵即ち天軍に命じて活動を開始せしめ給ふ時であり、天使の軍は主の神命に服して忽ち活動を開始するのである。

アイの王は悪魔を代表し、彼の幕僚はゴグ及び其の他の悪しき靈者を代表した。其の邑の民比白之を追ひ撃つんとて呼ばはり集まり、ヨシユアの後を追ふて邑を出で離れ(ヨシユア記八章十六)。此処に悪魔がその見ゆる全軍を動員してエホバの王キリスト・イエスと神の國の自信及此の音信を宣明する者、敵對しエホバの神軍を一掃し盡さんと固く決意せる光景が豫示されてゐる。我々がアイの全軍を出でて戦ひに参加するやう命ぜられた。ヨシユアにも、ベテルにもイスラエルを追ひ行かすして残り居る者は一人も無く比白邑を開き放してイスラエルの後を追へり(ヨシユア

ア記八章十七節。

ベテルの邑も亦此の攻撃に参加した。此の邑の者は特に宗教分子を代表した。敵の全軍は肉体的イスラエルを撃滅するための動員された。此の事は悪魔が其の全軍を用いて霊的イスラエル即ちエホバの證者及び之と戦ふ者等を掃せんと思はせる事を豫示するものである。敵は己が本城を無防衛のままに放任した。此の事は即ち敵が、被造物の如何なる者よりも智く在りし神の聖手に弄ばれてゐる事を示してゐるのである。肉体的イスラエルの敵なるアイ人等が己の力に頼つた如く、其の如くハルマゲドンに於て悪魔と其の全軍は自力の能力に恃むのである。嘘偽なる虚しき者に仕ふる者は、自己の愚みなるものを棄つ。(ヨナ書二章八節)。

神はヨシヤに対してその伏兵に合圍する時と方法を示して置かれた。而して伏兵の活動を開始すべき時は到来したのである。ヨシヤはエホバ、ヨシヤに言ひ給はく、汝の手にある矛をアイの方へ差し伸べよ。われ之を汝の手に授くべしと。ヨシヤ即ち己の手に

ある矛をアイの方へ差し伸ぶるに(ヨシヤア記八章十八節)。

エホバは全軍を動かす爲に時を定め置き給ふた。そして今ヨシヤに向つて彼の手にある矛を差し伸べよと命じ給ふた。ヨシヤは神より示されし時に神命に服従して此の事をなした。旭日は照らし給ふた。城の西方に埋伏する者は反射した。伏兵は彼等の活動を命ずる此の合圍を熱心に待ち受けてゐたのである。之と同様なエホバの神力の頭示は之より暫らく後のギベオンに於て、ハルマゲドンを豫表する此の戦に就て斯く記される。汝の走る矢の光の爲め、汝の鎗の電光の如き閃爍の爲めに日月その住むところに立ち止まる。(ハバクク書三章十二節)。

ヨシヤは其の矛、即ち鎗の先の閃光の中に己が顔を追撃し来る敵の方に振り向けた。而してヨシヤの鎗の閃光を見たる伏兵は直ちに攻撃を開始の爲めに前進した。此の豫言的戯曲の此の部分は、ヨシヤよりも大なる大指揮官キリスト、イエスが、神の敵を

撃滅せよとの信号をエホバの天軍に向つて發し給ふ事を豫表してゐるのである。伏兵怒ち其の処より起り、ヨシヤが手を伸ぶるとひとしく走せ来りて邑に打ち入り、之を取りて直ちに邑に火をかけたなり。(ヨシヤ記八十九)。

全能の神の大戦は極めて急速にして、悪魔の組織制度は忽ちに焼却し盡さるべし。之は全能の神エホバが御自身の聖名を證明するため敵の全部を撃滅し掃し給ふ聖戦である。此の聖戦に就て神の聖言の中に斯く記録せる。主エホバは言ひ給ふ。其の曰即ちゴゲがイスラエルの地に攻め来りし日に、我が怒、面に現はるべし。われ熱心と燃えたる怒をもて言ふ。其の曰には必ずイスラエルの地に大なる震動あらん。海の魚、空の鳥、野の獸、凡て地に崩れんとするの昆虫、凡て地にある人、我が前に震はん。又山々崩れ、巖出殿たふれ、石垣は皆地に倒れん。主エホバ言ひ給ふ。我が剣を我が全ての山に呼び来りて、彼を攻めしめん。人々の剣その兄弟を撃つべし。われ疫病と血を以て彼の罪をたださん。われ漲ぎる雨と雹と、火と

硫磺を彼とその軍勢及び彼と共にある多くの民の上に降りすべし。而して我々が大なる事と、聖きことを明らかにし、多くの国民の目の前に我を示さん。彼等は即ち我の、エホバなる事を知るべし。(エゼキエル書三十八章三十三節)。

全能の神の大なる日の此の戦から逃れ去る敵があるであらうか。次の聖言に注意せよ。茲にアイの人々背後を振りかへりて觀しに、邑の焼くる煙、天に立ち上り居れば、此處へも彼處へも逃ぐるは術なかりき。斯かる機もせし野に逃げ行ける民も身をかへして其の追ひ来る者どもに迫れり。(ヨシヤ記八章廿節)。

此の時ヨシヤはその本隊を率ゐて追撃し来る敵に対して攻撃を開始した。之は當然敵に甚大なる驚愕を與へると共にヨシヤ軍の反撃し来る理由を知るに苦しんだ。そして己が背後を振りかへつてアイ城の炎上しつゝあるを發見した。其の陥つたと云ふ叫びが敵の全軍に起つた。その如く主イエスがハルマゲドンに於て敵に

対して攻勢を執らるる時に、主の聖手より
逃れ得る者は絶無である。假ひ或る者は暫
くの間己れの決意を隠す事あるも彼等は儼
て発見されて滅されるのである。神は敵対
する地上の敵が己等の立場を示すために
彼等の戦衣を着用するは略々其の頃で
あつて、斯くして彼等は容易に発見され憐
れみ惜しまるる事なくして神軍の手に滅
滅されて了ふのである。(列王記略下十章廿二
一廿七節)。悪魔の代表者なるアイの王と
彼の軍隊が振り回つて己の城邑の炎上する
を見る此の時は、即ち「バビロン」の崩壊を
眺むる若等が遙かに離れ立ちて「悲し
きかな、悲しきかな。大なる邑バビロン堅
固なる邑、汝が受くる審判一時の間に至
れり」(黙示録十八首下九、十節)と哀哭悲
嘆する時を豫表してゐるのである。此の時に悪
魔の勢力は羅馬法王教権を見捨てて、意子未
バの證者毀滅のみに専心すべく、而して急速
に全滅することとなつてゐるのである。

此の時ヨシニアが振り回つて追撃し来る敵
軍に對して攻勢を執つた事は、主の天軍が
企てて全滅することを示してゐる。
アイ城を占領して之に放火せる伏兵五千は
直ちに火火上する城を出で、本隊と合して敵
の撃滅に参加するたために急いだ。かの兵ま
た邑より出で来りて、彼等に向ひければ彼
方にも此方にも、イスラエル人ありて、彼等は其
の中間に挟まれぬ。イスラエル人斯くして彼ら
を攻め撃ちて、一人をも餘さず、逃がさず(ヨ
シニア記八、廿二)。神の契約の民の敵は此の
時ヨシニア麾下の神軍の手に包圍されて、人
も逃ぐる事を許されなかつた。即ち此處に、ハ
ルマゲドンに於けるエホバの聖戰の峻嚴と其
の結果の如何なるかが豫示されてゐる。此の解
明こそ眞にエホバの受言者とその「伴侶」
に無限の勇氣と確信と希望を興ふるも
のである。全能の神の忠信なる僕たちの上に
攻め寄する敵の總聯合軍の滅亡は絶対の
確實である。エホバは昔ヨシヤパテに向つて口
許給ひし如く、今地上の忠信者に向つて「明
日彼等の所に攻め下れ」と告げ給ふ。我等
は今日此の「明日」にある。そして出で行き、
神の國の福音信を以て敵に直面しつゝあるの

ハルマゲドンに於ける大敵を滅の仕事に参加する
事を豫表してゐる。斯くの如くヨシニアと其の
直接指揮下の軍隊はアイ戦に於ける此の豫
言の大戯曲の中に二役以上の役を豫演した
のである。
伏兵は直ちに城内に攻め入つて火を放つた。濛
々たる其の黒煙は城邑の破滅を敵と味方の
両者に示したのである。ヨシニア及び全てのイ
スラエル人、伏兵の邑を取りて、邑の焼くる煙
の立ち騰るを見、身をかへしてアイの人々を殺
しけるがら(ヨシニア記八、廿一)。悪魔と彼の
地的部隊を代表せるアイの王と彼の軍隊は
城内に己が婦女子を殺して置いた。而してアイ
城の炎上は、他の諸分子を煽動使喚してエ
ホバの神軍と戦はしむる所の羅馬法王教権と
其の宗教家の先づ滅亡するを豫表したので
あつて此の宗教分子は先づ最初に壊滅する
こととなる。(エレミヤ記五十一章廿節)。此の戦
争に参加せるアイとベテルの全軍はヨシニアの
手で戦場に於て撃滅された。此の事は即ち
悪魔の見ゆる組織制度の諸分子が、神エホ
バと其の王に眞に奉仕する者等を滅せんと

である。然る時に神はその民に示して、彼等は
は肉に屬する武器を以て戦ふに及ばざる旨
を示して、「此の戦争には汝等戦ふに及ば
ず……汝等の戦に非ず。エホバの戦は
なり」(歴代志略下廿五章十五、十七節)と
告げ給ふ。今地上にあるエホバの忠信者は、
豫言者エレミヤの如く、神の福音信を携へ
て敵前に進み行く。而して彼等は「大なる反
対に遇ふ」とを充分に世覺悟してゐるのであ
る。彼等は己等の前途に大なる難關の横
はる事を知る。此の故にエホバは彼等を力
づけんが爲にその敵に就て斯く示し給ふ。
「彼等は汝らと戦はん」とするも汝は勝た
ざるべし。そは我、汝と共にありて汝を救ふべ
ければなり」とエホバ言ひ給へり(エレミヤ
記一章十九節)。
此の緊迫せる時に、神の民に對して此の解
明が興へらるるとは全くエホバの御恩寵
と御慈愛の如何に大なるかを明白に立
證するものである。神を愛して忠実に奉
仕する眞のキリスト、イエスの追隨者たち
は、今日、絶対に来るることなく、返還する

事なく又拱手して怠る事なく、唯神に全き信仰と信頼を固く懸念してエホバの聖業を推し進めるのである。忠信者よ、雄々しかれ。主に頼りて強かれ。エホバの全勝は絶對に確實なりと矢。

アイ軍の最後の者の滅せらるる事を目撃し得たる者はアイの王自身であつた。此のアイの王は、己が全軍の最後を目撃することとなつてゐる悪魔を豫表した。日遂にアイの王を生擒りて、ヨシニアの前に曳き、未ルリロ(ヨシニア記八ノ廿三)。之ぞ即ち黙示録廿五章一、二節の豫言と全く一致してゐる。生擒せられてヨシニアの前に曳かれ、アイの王は己が軍隊の最後を見届けた。ヨイスラエル人已をせし野に追ひまじり、アイの民を米心く野に殺し、又をもてこゝろを倒し盡すに及びて、比白アイに帰り、又を以て之を打ち滅せり(ヨシニア記八章廿四節)。

此の豫言的模圖の成就として「煉獄」その他の偽教理を用ひて人々の間に悪毒なる脅喝詐欺を働く羅馬法王教権の宗教家の或る者は、ハルマゲドンの開始するとい

て取るや彼等が常用の「スカート式」特異な僧服を脱ぎ、言葉で農夫の如く偽装して逃走せんと企てるのである。(ゼカリヤ書十三章四、六節)。然し彼等の此の企ても又全く失敗することとなつてゐる。彼等は「ヨシニア」よりも大なる「キリスト・イエスを欺く事」は出来ぬ。主イエスは神の敵全部を必ず探し出し給ふのである。之等偽装農夫の全部は一掃し盡さるべし。其の日、アイの人々悉く倒れたり。其の數男女合せて一萬二千人也(ヨシニア記八章廿五節)。

此の豫言ある「一萬二千人」は戦闘員のみであつて、之の中には「斷定」に「懺悔」せざる非戦闘員は含まれてゐない。此の豫言的模圖は、悪魔の組織制度を形成する神の敵の全滅する事を豫示してゐる。豫言的模圖の中の「俳優」は時に他の役を豫演する。場合が「俳優」である。此の時、敵軍大屠殺の仕事に参加せるヨシニア「座」下の全軍は、ハルマゲドンの於て「キリスト・イエスの指揮」下に活動する神の天軍を代表した。此の大戦闘に於て地上にあるエホバの證者は一人として

實際に不参加しないのである。エホバの證者たる任務は神の「奇しき御行爲」に参加してエホバの即主名を讃頌、頌する事にある。屠殺の開始後に如何なる歌聲も聞かざる。此の事は即ちハルマゲドンの於ける屠殺の開始される時にエホバの「奇しき御行爲」の完了する事を立證してゐるのである。アイが全滅せる如く、ハルマゲドンの於て悪魔の見ゆる組織制度の全部は完全に滅亡するのである。然る後に地上は「日」生めよ、殖えよ、地に満てよ」との「エホバの授け命令」を執行するに適するやうに準備されるのである。(創世記一章廿八節、九章十一節)。

エリコに関する豫言的模圖は、日大なる群衆を形成する地の善吉意者の少女を出現せしめてゐる。而して之は遊婦「ラハブ」と其の家族が救はれる事によつて示されてゐるのである。アイの戦に於ては日大なる群衆に関する模圖は特別に示されてゐない。然し「ラハブ」と其の家族が「イスラエル」の組織制度の中に加へられてゐる以上、此の事はハルマゲドンの進行する時に日大なる

る群衆が「遺残者」と共に密接なる行動を執ることを豫示してゐるのである。此の事は即ち日大なる群衆の集合はハルマゲドンの以前に完了することを示す。此の有力なる證據である。他の豫言的模圖に見るに、「全能の神の大なる日の戦」の時、日大なる群衆は彼等の爲に特設される。御保護の邑の中にありて、主イエスキリストの御保護下に置かれ、大戦の終了するまで其の中に留まることがなつてゐる。(民数記略廿五章九、一三節。ヨシニア記廿ノ一、九)。

城邑に放火せる伏兵が敵を討つべく戦場へ駆けつけて来た時、アイの人々は腹背に敵を受けて日彼方にも、此方にも「イスラエル」人ありて、彼等は其の中間に挟まれぬと記録さる。此の事は即ち「キリスト・イエスの直接指揮」下にある天軍が敵を包圍して之を滅滅する事を豫示してゐる。ヨシニアは戦闘中止の信号をなすとして、反つて戦闘を続けよと命令した。此の事は「ヨシニア」、アイの民を米心く滅し絶つまで

は其の矛を指し伸べたる手を垂れざりき、ヨシニア記ハ、廿六とある記録に見るも明らかである。エホバはヨシの手にある矛をアイの上方へ指し伸べよ」と命じ給ふた。ヨシニア記ハ、十八。ヨシニアは戦闘の繼續を命ずるために此の矛を差し伸べておたのであつて之はヨシニアが此の矛を差し伸べたが爲にイスラエルが敵に勝利を得たと云ふ事を特に示してゐるのではないのである。レビデムに於てヨシニアが己が上將モーゼの下に司令官としてアマレク人と戦つた時に此の時の戦闘はモーゼの手に高く懸けられてゐる事をその勝敗が懸つておた。(出埃及記十七、章一、ハ、十六節)。アイ人に対するイスラエル側の勝利は、ヨシニアが其の矛を差し伸べて断へず信号を續けておた事に懸つてゐると見てもよい。少くとも彼が其の矛を差し伸べておた事は、敵の最後の入を待たすまで戦闘を繼續せよと命ずる号令となつておたのである。此の事は、ハルマゲドンに於ける神軍の総司令官キリスト・イエスが惡魔の組織制度の各部分が掃蕩し盡さる

ス千十の土地を占領しておたアモリ人其の他のカナン人は惡魔の側に屬して、何れもが惡魔の宗教を行ふものであつた。故にエホバの審判は之等の者の滅亡を定めたのである。ノアの時代の大洪水の時にエホバは地上から人類の全部を二掃して、唯ノアの一家八人のみを救はれた。若し人々が神の聖怒の此の顯示とその聖力の發現とは思ふならは、彼等は後に惡魔の宗教に走りなかつた筈である。然るに彼等は此の事をなしたる以上彼等は皆田然滅さるべきものである。アイの戦に於てエホバは、惡魔の支持者全部をハルマゲドンにて撃滅し掃する事を豫示する一の豫言的模図を作成されたのである。此の豫言的模図は必ず成就しなければならぬ。而して今神を信じ、神を愛して神に奉仕する者等は此のアイ人との戦闘に関する記録によつて教へられ、神エホバと「ヨシニアよりも大なるキリスト・イエスの側に己自身を全く信服せしめるのである。エホバの證者の「遺残者」と曰大なる群衆のみが今日神エホバに對して此の帰順信服をなすのであ

まで戦闘繼續を命じ給ふことを豫表してゐる。ヨシニアは萬軍のエホバの神命に全敵の最後の一入を撃ち倒すまで戦を繼續する事を欲した。ヨシニアはかつては未完了の任務が絶無であつた。即ち後にサウルがアマレク人討伐に關するエホバの神命を未完了のままに放置せる如きことはヨシニアは絶無であつた。若しサウルが此のヨシニアに見習つたならば、彼はアマレク人の一人をも逃さなかつたであらう。

アイ人との戦ひととの處分は批評家たちの妄評する如くに單なる無益の殺生や、残虐なる行爲でもなかつた。エホバの聖戰とハルマゲドンのそれは、エホバの御目的の何なるかを正しく諒解するまで、何人と雖も之に正當なる批判を加へる事が出来ぬ。エホバの聖名は正しく決定されなければならぬ。最大重要問題である。惡魔は神エホバに挑戦して、エホバは試練と苦難の裡に神に對して忠誠と貞節を保つ人間を地上に有する事が出来ないと傲語した。當時パレ

つて、之等の者のみがハルマゲドンの後に生き残るとなる。此の音信は今正義と永久の生命を求むる者に対して主より顯示さる。此の上真理を受けて、之を更に他の善意者に傳達する事は神より與へられ、大なる特權である。斯くして他の善意者も亦唯一安全なる避難の道を発見し得るごととなる。ハルマゲドンの大戦はエホバの全勝に歸すべくその結果は、エホバの聖名の證明となる。アイに於けるヨシニアと其の軍隊を用ひてエホバは御自身の聖名證明に關する一の豫言的戲曲を作成して置かれた。此の豫言的戲曲は、且取も近き將來に於て必ず成就するごととなつてゐる。神と惡魔との間の戦は一九二四年から開始された。而してエホバは一九一八年に此の戦闘を一時中止し給ふた。斯く此の「惡難の日」は短縮され、其の間は平安の一期間を備へ、此の期間内にエホバの證者をして全地を行き巡りて人々に教言告を與へ、善意者に安全と救の福音を傳達する一機會を有せしむる事となつた。此の善言奇しき御

行爲は今進行中なるも其の終結は最も
間近く迫つてゐる。此の「奇しき」御行爲の
の終結すると同時に「空前絶後の大苦心難
が全地を襲ふこととなつてゐる。(マタイ傳廿
四章七―十二節)ぞそ即ち悪魔の全軍を完
全に掃蕩除去するものであり、エホバの聖名
を完全に證明するものである。

アイの戦に於て「エリコ」の戦のそれとは違つ
た規則を制定して、家畜類を容赦せられた。
「但しその邑の家畜及び貨財はイスラエル人
に流を奪ひて自ら取れり。こはエホバのヨシユ
アに命じ給ひし言に依るなり。」(ヨシユア記八、
廿七)。民数記略廿二章廿五―卅一節に示され
ある規定によると、今捕物の一部はエホバの
栄光のためにイスラエルの祭司職によつて使
用せらる事となつてゐる。此の豫言的模倣
も又成就するのである。我等は今此の豫言
が如何なる風に成就するかを知る事は出来
ないが然し我等は神の國の奉仕に實際に
奉仕する者は不朽の財寶即ち永遠に
朽つる事なき、寶貨を収獲する事を知る。
此の故に神の忠信なる僕は今、不朽の寶貨

を天に蓄積してゐるのである。

ヨシユアの此の仕事は悪魔の悪しき世
の最後の切迫せる事を示してゐる。「ヨシ
ユア、アイを焼きて、水を廢墟とならし
む。之は今白まで荒地となり居る。」(ヨシ
ユア記八、廿八)。此の豫言的戯曲の此の部
分の成就に就てエホバの豫言は悪魔の
組織制度の上に審判を下して斯く言ふ。
「エホバ言ひ給はく、全地を滅したる滅ぼす
山よ。視よ、我は汝の敵となる。水を手を汝
の上に伸べて、汝を崖より轉ばし、汝を焼
山となすべし。」(エレミヤ記五十五章廿五節)。
然る後に悪魔自身が處分される。「ヨシ
ユア言ひ給はく、アイの王を夕暮まで木に懸けて曝
し、日の入るに及びて命じて其の屍體を木より
取りおろさしめ、邑の門の入口に水を投げ棄
て、その上に石の大塚を積みおこせり。それは今
日まで存る。」(ヨシユア記八、廿九)。
城門は審判の場所であつた。故にアイの王の受
けたる運命は、悪魔が己の組織制度の全滅
を自ら自撃したる後に、呪はれたる者として処
罰せられ、彼の名の上に永久の誹謗が存積する

こととなるのを示してゐるのである。他の諸聖
句は示して、悪魔が千年期の終りに再び出で
来ることを教へてゐる。或る者等は之に就て
誤つた意見を陳べて、悪魔の爲に贖價の
効力がないから彼の再び出で来る事は不可
能であると主張してゐる。死者を死より
甦らす爲に贖價が常に必要ではない。
神エホバの聖力は無限である。地上が正義
の人類を以て満たされる時に、悪魔を甦
らすべしとエホバが聲明し置き給ふ以上、
神は必ずその事をなし給ふのである。而して
悪魔は最初から大馬鹿者であつたを云ふ事
を彼は示し給ふ事となつてゐる。

アイの戦の直後ヨシユアは、北方二十哩を隔
てたる歴史的の二地兵に全軍を進めた。昔日カ
ナンの地に入つたアブラム(後にアブラハムと改名す)
は其処に最初の足跡を印した。其の処はシ
ケムの近くで、エバル山と南方の「ゲリジム山」の中
間であつた。アブラムはエホバの神命に服して
カナンの地に入つたのである。「ヨシユア」其の地
を通りてシケムの所に及び、モレの櫟の樹に
至り。其の時にカナン人廿六の地に住めり。

(創世記十一章六、七節)。

モーセはイスラエル人がカナンの地に入る前に
エホバの神命を彼等に傳達して斯う言つ
た。「汝の神エホバ、汝が行きて得んとす
る地に、汝を道すき入り給ふ時は、汝ゲリジ
ム山に祝福を置き、エバル山に呪詛を置
くべし。この二山はヨルダンの彼方、アラバに
住めるカナン人の地に於て日の出づる方
の道の後方であり、ギルガルに對ひて、モレ
の櫟の樹と相隣ること遠からざるに
非ずや。」(申命記十一、廿九、卅節)。
斯くの如く此の地は歴史的興味に富
み、エホバを愛する者等にとつては神聖
なる地區であつた。「斯くてヨシユア、エバル
山にてイスラエルの神エホバに一の壇を築き
り。」(ヨシユア記八、廿)。「神がアブラムに向
つて約束し置き給へる此の地に於て、神命
に服して、エホバの爲に一の祭壇を築き
べき時が此処に到来したのである。即ち神
は昔アブラムに向つて「我は汝の老翁に此の地
を與へん」と約束されしが此の御約束は
カナンの地に入つたイスラエルの肉の子孫の

上に其の成就を開始した。

ヨシユアはモーセを通じて興へられた神命の實行に着手した。之はエホバの僕モーセがイスラエルの子孫に命ぜしことと共々、モーセの律法の書に記される所に従ひて新石を以て作る壇にて何人も献祭を奉りあはす。人々その上にエホバに燔祭を献げ酬恩祭を供ふら(ヨシユア記八ノ廿二)。此處は昔アブラハムが彼の最初の祭壇を築いた所に近かつた。(創世記十二草七節。出埃及記廿五草廿五節。申命記廿七草五、六節)。エホバがアブラハムに興へ給ひし御約束を今彼の肉の子孫の上は成就し、又彼等に大勝利を興へ給ひし事を大に感謝してヨシユアは其の祭壇の上は祭物を供へた。エホバの忠信なる「遺残者」即ちアブラハムの靈的「遺残者」は今既に「約束の地」に入つた。彼等は宮の中に築かれたる「法ける石」である。(ペテロ前書二草五節)。彼等は今キリスト・イエスを通じてエホバに「讚美と感謝の祭物」を献ぐ。即ち之は彼等が至上者エホバの聖名と神の國を忠実に宣明す

ば、我が今日汝らに命ずるその石をエバール山に立て、石、其の上は塗るべし。可世の律法の諸々の言語をその石の上は明白に書すべし。(申命記廿七草一、四、八) 此の行爲はエホバの律法を擡揚し、之の重要なることを力説せるものにして、之は閣下して記録されたるは、神の契約の民は如何なる者と雖もエホバの律法と契約に就て知らなかつたと云ふ事の出末ざるや、彼等に明示する一の證言となるためであつた。エホバは己れ義なるが故に、大にして忠實き律法を賜ふを喜び給へり。(イザヤ書四十二草一節)。神の律法は即ち神の聖言である。エホバは之によつて御自身の聖名を證明し給ふ。靈的イスラエルが實體的「ヨルダン」を渡河して以来、而して特に一九三六年以後、エホバは宗教とその傳説を排撃して御自身の律法を擡揚し、神の律法の貴きことを示し給ふた。宗教は神の聖言、即ち律法を汚辱して之を無効なす。(マタイ傳十五草九節)。

一九三七年は「本會」より發行されたる「保

ることによつて神の聖前に献ぐる所の「口唇」の果である。エホバはその「御國」に於て既に「遺残者」に勝利を興へ給ふた。彼等は今日大なる群衆となし、共にエホバの聖名を讃頌するのである。(ヘブル書十三草一、五節)。

ヨシユアはその祭壇の石の上に立自信を書き記さずしてその目的のために豫め準備し置きたる石の上に書き記した。彼處にてヨシユア、モーセの書き記しし律法をイスラエルの子孫の前にて石に書き記し、セリロ(ヨシユア記八ノ廿二)。彼が之を書き記し用ひたる石は、モーセを通じて受けたる神命に服して準備されたる石であつた。エホバの御約束を渡り、汝の神エホバが汝に興へ給ふ地に入る時は、大なる石數個を立て、石、其の上は塗り、既に渡りて後の律法の諸々の言語を其の上は書すべし。然らば汝の神エホバの汝に賜ふ地なる乳と蜜の流るる地に汝入るを得ること、汝の先祖たちの神エホバの汝に言ひ給ひし如くならん。即ち汝らヨルダンを渡るに及

護いと題する冊子は特に此の事に就て注意を喚起し、凡て宗教行爲をなす者に対する敬告書として彼等をして「自分等は知らずして宗教を行つた」と云ふ「迷」の上を免する事なからしめたのである。今、此の祝福と呪詛に關する神の律法を聽く人々の一團を視よ。可漸くイスラエルの全ての人及びその長、官吏、裁判官など他國の若も本國の若も打ち交りて、エホバの契約の權を擡げる祭司たちレビ人の前にあたりて、權の此方と彼方に分れ、半分はゲリジム山の前に半分はエバール山の前に立てり。此ルエホバの僕モーセの命ぜし所に従ひて、最初に先づイスラエルの民を祝福せんとてなり。(ヨシユア記八ノ廿三)。

イスラエルの全部は此處に立つた。ラハブと彼女の家族も亦此處にあつた事は確實である。何故なれば此の處以外に安全なる場所がないからである。モーセの自男とその子孫も此の旅行に隨伴して来た。故にヨナダブの先祖なる「ケニの子孫」も亦此處にあつた。(士師記一章十六節。歴代志心

略上三章五十五節)。埃及から出て来たヨシヤ
居ル異邦人も亦此処にあつた。(出埃及記
十二章廿八、廿九節)之等の全部は神の契約
の民と共にあつて神の御保護を求めてゐた。
之等のヨシヤ人にして若し神より受くる
特権と保護に參與せん事を欲すならば、
彼等は神の律法に服従しなればならぬ
事となつてゐる。(出埃及記十二章廿八、四
十九節。民数九章十四、十五節。十五章
十四、十六節)此の故に彼等が神の律法を
学び知つて其の示す條件に服従すると云ふ
ことは彼等にとつて最も重要である。之等
異邦人は今日神の正義の律法を學び知
つて受言者と共に熱心に服従しなれば
ならぬ。之ぞ即ち正義と謙遜を求むる
道である。(ゼパニヤ書二章一、三節)此の集
合の場所は「約束の地」の略々中心であつた
今此の豫言的戯曲の此の部分の部分的
成就に就て見る。エホバの證者は今既に
神の国の聖き山に立ち、エホバの王即ち「ヨ
シヤよりも大なる」キリスト・イエスの直接指
揮下にある。彼等は神の律法を學び、

神の宮に集められた。一九三七年米國コロ
バス市に開かれたる奉仕會識は此の
事に対する外形的證據となつた。遺棄
者には神の律法の祝福と呪詛に就て聽
くべく主の聖前に立つた。神が一九三七年に
發表せしめ給へる豫言的眞理の数々は
之等の事實を力説してゐる。そして特に
「諒解」(一九三三年五月十五日發行「ワツタ
ワ」誌所載)「御國の利害」(一九三七年五月五日
發行「ワツタワ」誌所載)及び「エホバの
御行」(一九三七年九月一日發行「ワ
ツタワ」誌以後六回に亘つて連載)等が
即ちそれである。「遺棄者」及び之と共に
歩む所の「伴侶」なる「ヨシヤ」は此の
時以後一緒に神の律法と證言に就て學
ぶ事となつた。
神の示し給へる如く南方のゲリム山から
は祝福が讀まれ、北方のエバル山からは呪
詛が讀まれた。(申命記廿七章十一、十三)
然る後ヨシヤ律法の書に凡て記されたる
所に從ひて、祝福と呪詛とは關はる律法
の言を米心く讀めり。(ヨシヤ記八、廿四)。

斯くしてイスラエル人と其の中の「異邦人」の全
部は正式に敬告を受け、此の時以後神の
聖前に主責任を負ふこととなつた。此の事は即
ち「遺棄者」及び「大なる群衆」を形成する
處の善音意者が豫め戒告されて、爾後已等
の行爲に對して主責任を負ふ事となつたのを
豫表したのである。
エホバの音信は人々の意嚮を顧慮する
處なく、極めて率直に讀み聞かされた。
「モーセの命じたる一切の言」の中にヨシヤが
イスラエルの全會衆及び婦人子供並びにイ
スラエルの中に居る他國の人の前に讀まざ
るはなかりき。(ヨシヤ記八章五節)
ヨシヤの忠信なる事は彼が神の律法の全
部に對して細心の注意を拂つた事によつて直
證される。民の全部は靜肅の聲に之を謹
聽しなればならなかつた。彼等の問はあつた
子供れちも之を諷解すると云ふと、
之を靜肅に謹聽しなればならなかつた。
之は重大なる場合であつた。その如く神は今、
「ワツタワ」の發刊物を通じてその立言信と
敬告を與へ給ふ。神を敬慕する者の全部は善

び進んで之を學び、それによつて呪詛を免
がれ、神の祝福を受くる道を教へらるゝの
である。神に忠信なる成人者は此の音信と
敬告を己が子等に傳達せん事を願ふ。
(一九三八年四月十五日及五月一日發行「ワツタワ」誌
所載)子供れちを見よ。今善音意者は彼
等を訪問して、神の聖書の研究を援助
する。エホバの忠信なる證者によつて援けり。
一九三七年米國コロバス市に於ける大奉仕會
識にはエホバの證者と共に多くの善音意者
が参列した。斯くの如く今日多數の善音意
者がエホバの證者と共に歩む事は幾千
年の大業に於て此の豫言的模範の中に力
強く豫表されてゐるのである。
此の豫言的戯曲は今地上に歩む神の民を
力附け慰むるため、聖言の中を記録して置か
れた。(ヨシヤ記二、三、四、五)今神の聖言を聽りて、之
を傳へる者は、全能の神の命じたる言の戰
の最中切迫せる事を知る。惡魔も亦此の事を知
るが故に地上に全人衆を全滅せしむべく躍起
狂奔してゐるのである。彼は今神の民の上は苦
難の鞭を加へ、彼等より取る者、苦惱を與ふ。彼

は最後の六八決戦に備ふべく、ゴグの直接指揮下には彼の全軍を集合しつゝあり。今此の一文を草しつゝある時にも共産主義は、アツシヨ、ナチス等の独裁権者は最後の決戦のために其の戦備を急ぎつゝある。之等の全部は神エホバと神の國に敵対する者である。彼等は己が國家を以て天地の主人創造主エホバの上位に置き、悪魔の宗教的代表者たる羅馬法王教権を以て己等の靈的指導者と仰ぐ。悪魔の残心なる鞭打の下にある猶太人すらも羅馬法王教権の前に平伏して、過去に於て此の宗教制度の手より受けたる残虐と苦難の歴史を全く忘却したるかの如くである。之等全部の總聯合は即ち悪魔の仕事の結實せるものである。今全地諸國民の自由は全く奪ひ去られた。或る人々は之の理由に就て知らんとす。聖書に之を答へて言ふ。『地と海は禍むるのみ。そは悪魔己が時の幾許も無きを知り、大なる怒を懷きて汝等の所以下に降りたり』(黙示録十三章十二節)。

ツシヨ、ナチスの指導者たちの全部は悪魔の指揮下にあり、神の民を滅さんと其の之によつて神エホバと其の王キリスト・イエスに打ち勝たんと企つ。残忍にして不信な者なる此の悪魔の全軍の前に立ちて、エホバの證者とその『伴侶』なる地の善意者は神の國の音信を宣明して人々に警告を與ふ。此の故に彼等は悪魔より来る攻撃の標的となすのである。(黙示録十二、十三章十七節)。悪魔の全軍は地上にあるエホバの證者の攻撃を加ふべく今露骨に進み来る。然しエホバと其の王の側に立つ者は決して恐れな。彼等は『ヨシユアよりも大なる』キリスト・イエスの直接指揮下にあり、而して永遠の大王エホバは彼等を示し給ふ。『彼等汝等と戦はんとするも汝等汝等勝たざるべし。汝等強くあれし』。

エホバは今、地上に立つ神の民を力づくるために眞理を顯示し給ふ。『全能の神の大なる日の戦は』今既に迫る。而してエホバの大指揮官キリスト・イエスは、エホバの聖名の證明のため神軍の全部隊を

指揮して全勝を得給ふ。(2元)

『主、全能の神よ。

汝の御行爲は大なる哉、

妙なるかな。

萬民の王よ、

汝の道は義なる哉、

眞實なるかな。

(黙示録十五章三節)

The END

DRAMA OF VINDICATION

389
472

(不許複製)

昭和十四年六月二十五日印刷
昭和十四年六月二十五日發行
非賣品
【二百五十部限定版】

總發行所
東京市丸の内區丸の内四ノ五八
明石順三

發行所
東京市杉並區大宮四ノ三八
燈臺社

印刷所
燈臺社印刷部

終

